

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和7年6月27日(金曜日) 第3451号
(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)
毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健
購読料 6ヵ月 15,730円(税込み)
振替番号 東京4-71739
発行所 株式会社日刊経済通信社
本社 東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋川ビル9階
☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791
<http://www.nikkankeizai.co.jp/>

缶瓶詰

今中元期の缶詰ギフトは、ややスローペースの立ち上がりとなった。百貨店は6月始め、量販店は6月第1週末〜第2週あたりから実需が本格化し、ギフトショップは下旬から7月にかけてピークを迎える。

量販店は、NB加工食品ギフトは早期割引やポイント付与による値下げ、値ごろ感が強くなっている。百貨店・GMS・専門店では、生鮮を主力として高単価の産直製品(5000円以上)の製品の割合が大きくなってきた。

また、製品原価の上昇により現在の小売価格設定からの脱却が望まれる中ではあるが、依然としてギフト製品はジャストプライス(3000円・5000円など)を希望する消費者が多く、収益確保は厳しさを増している。通販関連では、ふるさと納税の各社ポイント

ト付与が9月末で終了するため、これらを兼ねた中元需要は増えると思われる。

売れ筋商品の中心価格帯は、ここ数年で平均単価が下落傾向にある。量販店はコロナ禍前は5000円だったのに対し、ここ1〜2年は3000円が主流になっているほか、百貨店は1万円から5000円に下落している。特に、量販店は中元歳暮においては、市場が縮小していることもあり、各社で顧客を取り込むべく割引をするなどの値下げ合戦が起きており、平均単価が下がっている。百貨店は、法人需要の減少や高齢化により購入者自体の数が減少していることに加え、贈り先の数も限られてきている。

一方、原料事情は厳しさを増している。トラバガニは23年にアラスカ産の禁漁が解除されたが、供給はほぼアメリカ国内向けとなり、直近シーズン価格もkg

各社とも強み活かし売れ筋を積極提案

'25年中元ギフト特集③



当たり1万円〜1万1000円と高値圏。24年ロシア産は、高騰相場から下げたものの、中国向けの輸出が増えているほか、インバウンド向け需要が旺盛で、加工向けは引き続き高い。23年の5000円から直近シーズンは6000〜7000円まで跳ね上がった。ベニズワイは国産(北陸)で2300〜2400円と1割高。韓国産は1800円前後。漁獲量は低位横ばいも高値圏。人件費高騰などでもき身加工場では人手

不足に悩まされている。ホタテは最高値を更新。2L・Lサイズは3000円から5000円に高騰した。夏の猛暑で稚貝が斃死したため、陸奥湾では2年程度、噴火湾は4年ほど影響が長期化する見込み。海水温の上昇で成長が遅く、サイズも小ぶり傾向にある。特に、陸奥湾産は25年の7万トンから26年は2万トンを計画。単価は2倍に上昇する見込み。噴火湾は8〜9万トンと例年並み。オホーツクは40万トンと12%減。高水温で稚貝の成長が遅れた。

24年国産白鮭は4万トンと過去最低。23年の5万3000トンからさらに落ち込んだ。ちなみに22年は7万トンと一頃の10万トン規模から大きく落ち込んでいる。価格は150〜170%まで暴騰した。米国産は需要が高まっていることから引

き合いが強い。青物原料は不漁が続いている。サバ缶は、これまで主産地に近い三陸産原料がメインだったが、ここ2年ほどは九州のゴマサバが多くなったことで、原料輸送に時間とコストがかかっている。イワシは5月末から始まり6〜7月の入梅シーズンに最盛期を迎える。ただ、最近ではミール需要の高まりで価格は上昇。kg当たり30円から50〜60円、最高値80円まで上がった。加工向けも100円を超える見込み。魚体も小さい。50〜60g中心で適正サイズの70〜80gは少ないため、歩留まりが上がらない。イカは2016年以降、極度の不漁が続いている。現在はアメリカ、カナダのほか、アルゼンチンマツイイカを使っているが、1缶500円を超える。赤貝は有明産は4年間漁獲がなく、今後も回復が見込めないまま中国産

(2面に続く)

主な内容

25年中元ギフト③1〜6面	(缶瓶詰・ビール類)	タカラ・ハイアミックス
15面	11面	5月のアイス商況
		4月のみそ出荷量
		海外「THAIFEX」
		レボ「T-HAIFEX」
		インタキリン上田 営業部長
		◎原料商品情報
8面	13面	7面
		9面
		14面
		15面

食品通信

●A4判速報形式
●有力企業広告も掲載
●購読料 6ヵ月45,100円(税込み)

業界唯一の酒類食品総合日刊紙。多忙の時はヘッドラインをお読み下さい。本文も簡潔、明瞭です。

日刊経済通信社の刊行物

酒類食品統計月報

独自の調査による統計・レポートづくりを通じて50余年。今後も酒類食品業界をデータとして記録し続けます。

●B5判雑誌形式。毎月月末発行
●有力企業広告も掲載
●購読料 6ヵ月24,750円(税込み)

酒類食品統計月報

2022 1